

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス「ぶくぶく」			
○保護者評価実施期間	令和6年11月8日		～	令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5 5 名	(回答者数)	3 3 名
○従業者評価実施期間	令和6年11月8日		～	令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が安心感をもって、通所を楽しみにしてくれている。 保護者が事業所の支援に満足していただいている。	日頃から、一つでも楽しかったという思いを持って自宅に帰ってもらえるよう支援をしている。 スタッフがひとつひとつの言葉かけを大事にし、関係性を築けるよう意識している。	落ち着いた様子だけでなく、不穏になった時にどんな対応がとれるか日々スタッフで考えておく。また、保護者にも一緒に子育てをしているという意識を持っていただけるよう、細かな配慮を続ける。
2	スタッフ同士の情報共有がなされている。	引きとり時に受けた情報を、フロアにいるスタッフへ確実へ伝えられるよう時間を取っている。 帰りの際も、伝えもれが無いよう、確認してから出発している。	ミーティング時の情報交換を密にとり、連携が取れるよう引き続き取り組みを進める。
3	子どもの事を理解し、保護者のニーズを分析して支援計画が作成されている。	・日頃からの子どもたちへの支援に加え、面談や送迎時の聞き取りを含めて支援計画を作成している。 ・一人の意見に偏らないよう、ミーティングなどで複数の意見を取り入れて作成するようにしている。	学校・他事業所・相談支援事業所など、情報を集めて支援計画の充実を図る。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者に対しての家族支援（きょうだい児への支援）や保護者同士の交流の機会を設けること。	・きょうだい児への支援はニーズがあるのか、どんなアプローチができるのか模索中である。 ・保護者同士の交流の機会は、年一回の保護者会にとどまっている。	外部の研修・イベントの情報提供といった間接的な支援は十分に行っている反面、ぶくぶく主体の研修・イベントは年1回である。機会の充実と回数を増やしていけるかを検討する。
2	職員の配置数の課題。	人員基準・加配体制に問題はないが、充実した支援体制としては、現在の人数にプラスしていかなければならない。	福祉人材の不足は最近の話ではなく、数年にわたる問題でもある。現在は法人内でスタッフを分配し、運営をしている。一般的な求人に加え、東京都のふくチャレ、ボランティアの募集などでつながりを作っていく。
3	各種マニュアル、訓練等の発信。	HPに、2022年から各種マニュアルを掲載しており、訓練等は、連絡帳や送迎時に報告をしている。 スポット利用の方など利用回数が少ない方への情報発信が少なかった。	今回の評価表をHPに掲載する際、保護者へ改めてマニュアル等への周知を行う。 また、子どもに関する事や運営に対しての相談をいつでも受け付けている事を周知する。